

プラント・インフラ特集の発刊に際して

常務執行役員
プラント・インフラドメイン CEO

石塚 隆志
Takashi Ishizuka



プラント・インフラ特集の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

ロシアのウクライナへの進攻により、当事国だけでなく、世界全体に大きな影響が及んでいます。我国もエネルギーの安定供給やサプライチェーンの確保といった、いわゆる経済安全保障に関する課題を改めて突きつけられる事態となっています。戦火に見舞われて亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い平和の訪れを願っています。

当社は、“Mission Net Zero”を掲げ、2040年までに、当社だけでなくバリューチェーン全体で、二酸化炭素排出ゼロを目指しています。プラント・インフラドメインの製品も、この目標を念頭に様々な技術開発・製品開発が行われており、今回の特集では、その取組みの一部を紹介いたします。

まず、造船関連では、“カーボンニュートラル社会の実現に向けた液化CO₂輸送船及び船上CO₂回収装置の開発”及び“LNG燃料からアンモニア燃料へ(カーボンニュートラル実現に向けた船舶燃料転換)”を紹介いたします。エンジニアリング・環境化学関連では、“カーボンニュートラル社会実現に向けたCO₂回収技術に関する最新状況”、“ごみ焼却施設の持続可能性を支援するAI遠隔監視・運転支援システムMaiDAS®”、“最新鋭のストーカ式廃棄物焼却炉商用稼働開始”を、製鉄機械関連では“水素ベースの微粉鉍石還元”をお伝えします。

さらに、三菱重工グループの総合力を活かし、顧客の様々なニーズに応える取組みとして、“総合エンジニアリング力を発揮した可動式ホーム柵整備事業の取組み”と“幅広いお客様のニーズに対応する三菱重工グループのファシリティエンジニアリングへの取組み”を紹介いたします。

最後に、全社の技術開発成果として、“熟練者の操作習得とノウハウ可視化に寄与する逆強化学習”を紹介し、プラント運転ノウハウの伝承という課題への対応を示します。

プラント・インフラドメインは、持続可能な世界の実現に必要なとされる技術・製品の開発に取り組んで参りますので、引き続き、ご理解とご支援をお願い申し上げます。